

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立東与賀中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としています。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、英語)

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語(中学校)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

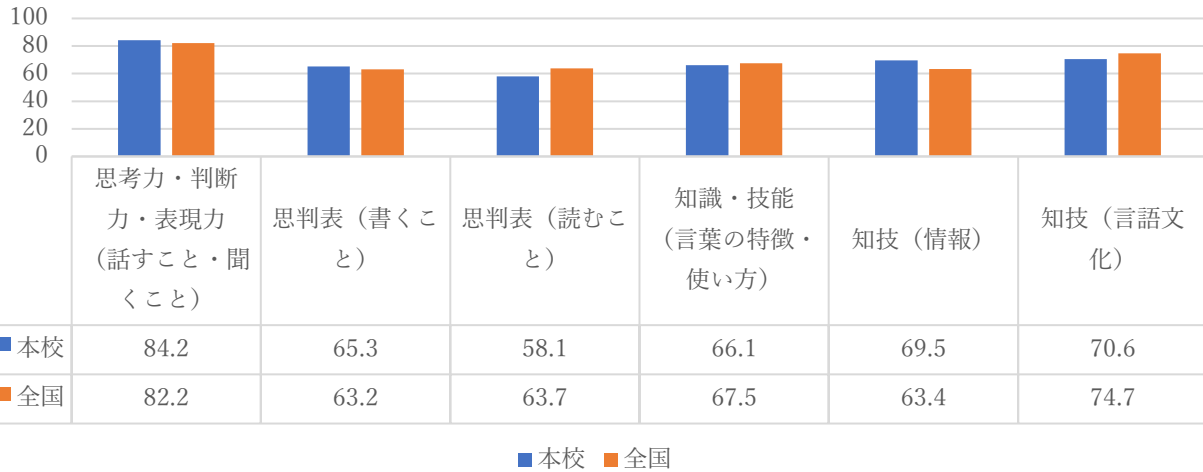
令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

佐賀市立東与賀中学校

■ 調査結果及び考察

1 国語

全国平均正答率との比較（中学校国語）



(1) 結果

全国平均と同等の結果でした。「話すこと・聞くこと」「書くこと」は、全国平均正答率を上回っています。しかし、「読むこと」は5.6ポイントと、全国平均を大きく下回っています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」が全国平均を上回りました。日ごろの授業で生徒同士が対話する場面や、文章を書く場面を多くつくったことで、力がついたと考えられます。課題は、読解力を高め、「読むこと」の正答率を上げることです。生徒の読解力を高めることが、「読むこと」だけでなく「話すこと・聞くこと」「書くこと」の力を伸ばすことにつながります。話の中心や文章の要旨を読み取ったうえで答える問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力をつけていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

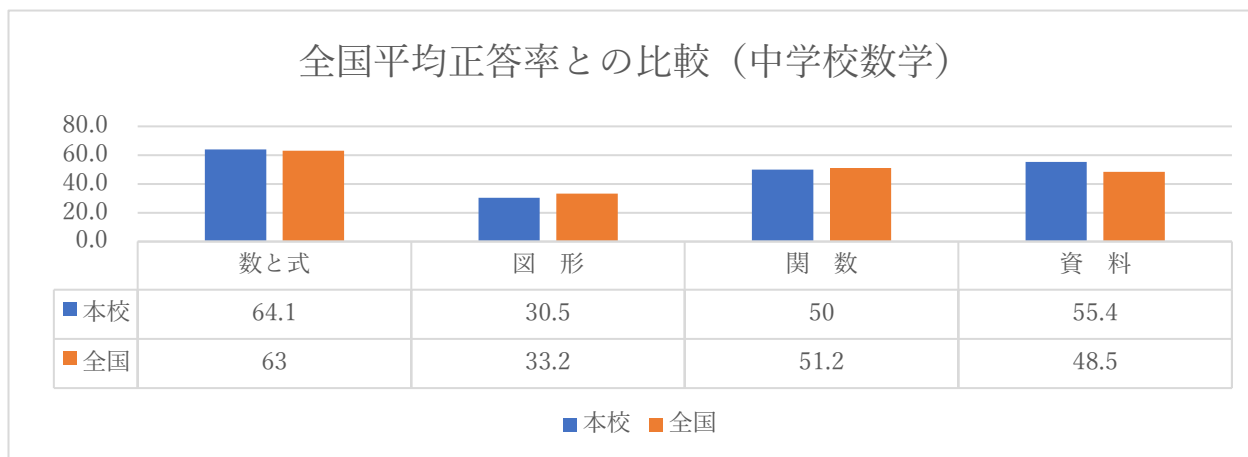
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、対話を重視した授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましよう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていましよう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

2 数学



(1) 結果

本校の平均正答率は52%で、県平均よりも5ポイント、全国平均よりも1ポイント上回っていました。領域別に見ると、図形と関数で全国平均を下回っており、証明の記述やグラフの読み取りに課題が見られました。

(2) 成果と課題

「A 数と式」の領域において、【2】の文字式の計算や【6】の文字を使った説明など全国平均を上回っていました。基本的な計算をしっかりと身につけることができていること、また、目的に応じて式を変形するなど、記述による説明力もついていると言えます。

また、「D データの活用」の領域においては、【7】の箱ひげ図を活用してデータの分布の様子を捉える問題で、四分位範囲の意味やデータの傾向を根拠をもとに説明することができていました。普段の授業において、数学用語を意識させながら説明する活動を取り入れている成果だと言えます。

「B 図形」の領域において、【9】の根拠を明確にして証明する問題の正答率が低くなっていました。図形の証明問題では、証明の方針をしっかりと立てることができるようにすること、また結論を示すためには何が分かればよいか、その根拠を明確に示しながら自分の考えを口頭や記述でアウトプットする活動を取り入れて学びを深めていく授業を行う必要があります。

また、「C 関数」の領域では、【8】のグラフから必要な情報を読み取り一次関数を使って解決する問題の正答率が低くなっていました。また読みとったことを、求める方法を説明する問題では、言葉や数式が不十分な解答が見られました。授業では、いつも「表、式、グラフ」を相互に関連付けて説明することや、説明では曖昧な表現で終わらず結論まで述べるようにすることを意識させ指導していきます。

(3) 学力向上のための取り組み

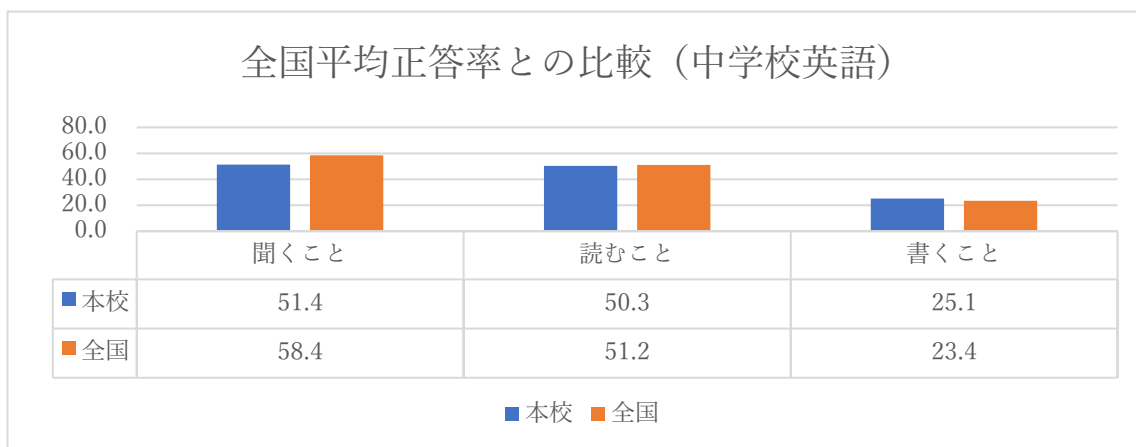
【学校では】

- ・日頃の授業から自分の考えを説明し合う活動を設定し、自分の考えを整理させたり、友達と考えを比較させたりしながら学びを深めさせていきます。
- ・主体的な学びとなるように、教材やワークシートを工夫したり、協働的な学びの場を計画的に設定したりします。
- ・単元テストや小テストを定期的に行い、基礎・基本の定着と自分の学びを振り返り、弱点の克服につながるような指導を行います。

【ご家庭では】

- ・予習を中心に行い、授業で学びを深めていくようにしましょう。授業で理解が不十分な問題は、先生や友達に聞いたり、解き方を復習したりして、決してそのままにしないように声かけをしてください。
- ・お子さんのワークやプリントなどの課題の取り組みやテストをご覧になって、たくさん励ましや賞賛の言葉をかけてください。

3 英語



(1) 結果

書くことに関しては全国正答率に比べ、+1.7 ポイント、読むことに関しては、-0.9 ポイントとほぼ同等であった。問題形式ごとの正答率を見てみると、情報を正確に読み取ったり日常的な話題についての要点を捉えたり、条件に合う表現を正しい文法で正確に書く正答率が高い。ただし、会話を聞いて情報を正確に聞き取ることができていない。

(2) 成果と課題

聞くこと

・状況を描写する英語を聞いて、内容を適切に表す絵を選択する問題の正答率は全国並みであった。一方で、まとまりのある英語を聞いて、質問の答えを推測したり話し手の伝えたい内容を選択したりする問題については、全国正答率を9ポイント下回った。

読むこと

・ある程度まとまりのある文章を読んで要点を捉える力は身につけている。しかし、量が多い文章を読んで、内容をふまえながら自分の考えを書く正答率が低かった。

書くこと

・依頼する表現を正確に書く問題では、全国正答率を15ポイント上回った。日常的な話題についてまとまりのある文章を書く問題では全国正答率と同等であったが、無回答率も高かった。事実や自分の考えを整理してまとまりのある文章を書き、生徒同士で読んだり修正したりする活動を設定する。

話すこと

・無解答率が低いことから、英語でコミュニケーションを取ることに抵抗はないが、求められた会話に必要な情報が不足している結果や、質問に対する理由がふさわしくない結果が多く見られた。授業の中で、様々な状況を設定しながらどの会話にどの文法が適切なのか生徒同士で互いに練習する時間を設定する。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 単元計画表を活用して、その単元で身につけたい力を提示し、見通しをもって学習に取り組めるようにしています。
- 『学び合い』活動を中心に、読んだことについて話す活動や、聞いたり読んだりしたことについて書く活動など、複数の領域を統合した言語活動の充実を図ります。

【ご家庭では】

- 授業以外でも英語を使う機会を増やすことが英語力の向上につながります。英語への関心が高まるような励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 学校で使用している教材以外にも英語学習のテレビ・ラジオ放送や英語学習用教材サイト等もご活用ください。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した生徒の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	88.1%	78.6%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	39.0%	34.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	61.0%	54.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	30.5%	37.2%
将来の夢や目標を持っていますか。	39.0%	39.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	84.7%	71.7%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	81.4%	80.3%

朝食・起床・就寝については全国平均を上回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていけることはとても重要です。自己肯定感についての項目については、肯定的な回答をした生徒は全国平均よりも低いため、学校と家庭と協力して日常生活の中で出番活躍承認の場を設けていきます。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	11.9%	15.3%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	3.4%	10.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	20.3%	23.4%
「1時間以上、2時間より少ない」	35.6%	32.1%
「30分以上、1時間より少ない」	27.1%	18.0%
「30分より少ない」	5.1%	9.9%
「全くしない」	8.5%	6.0%

家庭学習については全国平均を下回っています。1時間未満の生徒が4割以上おり、中には全く家庭学習をしていない生徒もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や生徒に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 本校では、学年・学期ごとに1週間の家庭学習最低時間を設定しています。目標時間が達成できるように生徒の学習時間を調査し、家庭学習の定着を図っています。
- テスト前は、家庭学習を計画的に進めることができるように具体的な学習内容や学習時間などの予定を立てています。家庭学習の実施状況に応じて担任等から適宜、アドバイスをを行いながら粘り強く取り組む姿勢を育てていきます。

【ご家庭では】

- ご家庭で情報端末機器（タブレットや携帯電話）などを使用する際には、起床時刻や就寝時刻が遅くならないように使用時のルールを家族で話し合しましょう。くれぐれも生活リズムが崩れないように気をつけましょう。
- 佐賀県教育委員会から配布された「家庭学習の手引き」をご覧になり、家族の対話の中からお子さんの小さな「がんばり」を見つけ、ほめていきましょう。また、家族で夢や目標について話す機会を設け、そこから日々の学習につなげ、学びを楽しむ雰囲気づくりを心がけましょう。